

# 論点

## ひきこもり問題

HIKIKOMORI は、今やKAROSHI とともに国際的な用語となつてきている。日本におけるこの問題の切実度が、国際的に突出している表れといえる。その実態を

初めて明らかにしたのは、2010年に内閣府が実施した「ひきこもり調査」である。「狭義のひきこもりが約70万人、ひきこもり予備軍が約155万人」との調査結果は、社会に衝撃を与えた。同じ年、厚生労働省は「ひきこもり支援ガイドライン」を発表し、「ひきこもりとは、様々な要因の結果として社会的参加(就学、就労、家庭外での交遊など)を回避

し、原則的には6カ月以上わたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念」とした。その意義は大きい。ひきこもり者は精神的異常者であるとか、問題の所在が「親の甘やかし、本人の怠け・甘え」にあるなどとする誤解が家族・当事者を苦しめ、問題を矮小化する役割を果たしていたからである。では、その「様々な要因」のうち社会的要因の主な

ものは何か。筆者が、実感しているのは、雇用条件の悪化・労働環境の悪化である。直近の支援事例のK氏もその一人である。彼は大学を卒業し大手スーパーに就職した。パート職員が多く、正規職の彼への負担が大きかった。早朝の出勤や閉店後の勤務が続いて疲れがたまると、店長から不十分さの指摘や厳しい叱責が増えていった。それが度重

なる中で体調を崩し病気を休職をとり、回復せず結局退職。就職3年目だった。その後就活をするが、どこも新卒優先で採用には至らない。叱咤激励する両親に対し「自分が必要とされていないダメ人間だ」と叫び、ひきこもった。否定的評価の積み重ねの中で、自信や意欲の喪失と不安の増大、孤立感・疎外感、さらには自己否定感を強めるという悪循環が彼を追い詰めたのだ。

ひきこもっている人に対する支援は、親が本人への愛情を丁寧に伝えることを援助するところから始める。一歩踏み出

すには「自分は愛されている、かけがえない存在なのだ」と頼りにされたい。その後の自分がある」と、基本的安心感とそれを土台とする自己肯定感・自尊感情を積み上げていくことが不可欠なのだ。そして、その中で生まれる気力・意欲の高まりを確認しながら、支援は相談室や居場所活動への誘導や豊かな体験の提供へと進んでいく。それは、単なる回復ではなく、新しい自分づくり・生き方づくりに向けての支援である。

国・自治体には、そうした当事者・家族・支援者の歩みを支えるきめ細かな施策が求められる。ところが、国の現行支援策の重点は若年層に置かれ、成果主義を基本とした就労支援策が中心となっている。そのため、在宅階にある当事者や家族、それを支援する団体等への支援策は無きに等しく、40歳以上のひきこもり者は支援はおろか調査対象にもされていないのである。こうしたことは、ひきこもりをつくりだす社会の側の問題を象徴している。利益・効率を第一として人間を使い捨てする社会ではなく、人間を尊重し大切にすることを社会の側が追求される。

## 不十分な中高年層への支援策

NPO法人子ども若もの支援ネットワークおおさか理事長

青木道忠



ものほ何か。筆者が、実感しているのは、雇用条件の悪化・労働環境の悪化である。

かな施策が求められる。ところが、国の現行支援策の重点は若年層に置かれ、成果主義を基本とした就労支援策が中心となっている。そのため、在宅階にある当事者や家族、それを支援する団体等への支援策は無きに等しく、40歳以上のひきこもり者は支援はおろか調査対象にもされていないのである。こうしたことは、ひきこもりをつくりだす社会の側の問題を象徴している。利益・効率を第一として人間を使い捨てする社会ではなく、人間を尊重し大切にすることを社会の側が追求される。

## 3月度生涯研修抄録 糖尿病と歯周病 - UP DATE

西村英紀氏 (九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座歯周病学分野教授)

クレビューで確認されている。私たちが広島県糖尿病対策推進会議、広島県歯科医師会と共同で行った、ヒロシマスタディと名付けた介入研究において歯周治療の有用性を検証している。ところがその矢先に、JAMAにその効果を否定するような報告が、センサーショナルに発表された。この結果の違いをどのように解釈すればいいのだろうか。そのためには、歯周治療でなぜヘモグロビンA1cが改善するのか、その機序を正確に理解する必要が。そこで、このたびの講演では、基礎的な面も含めこの疑問点を紐解いていくことに、糖尿病に遭遇する可能性のある歯科医療従事

者が知っておくべき糖尿病と歯周病の関連性に関する基礎知識について、UP DATEな話題を紹介したいと考えている。一方、我が国は急速に超高齢社会へと突入した。高齢者に対しては壮年期のいわゆる過剰栄養を基盤とした生活習慣病に留意しつつ行う歯科治療とは異なる対策が、求められている。特に、高齢者特有の栄養不良の問題に対しては、可能な限り栄養摂取をサポートすることが求められている。中医協も歯科医療体系は、従来の審美の回復

を目的としたものから高齢者型の機能の回復を目的としたものへとシフトしなければならぬ、と提唱している。栄養の経口摂取は様々な観点から重要であると言われてきた。ここでは特に、栄養の経口摂取の意義について、代謝学の観点からとらえてみたいと考えている。

以上、前半では栄養パランスのうち過剰栄養の観点からとらえる壮年期の、そして後半では栄養不良の予防の面からとらえる高齢者の歯科医療について話題を提供する予定である。

**物件案内**

歯科医院譲渡  
【住所】兵庫県西宮市樋之池町  
【最寄駅】阪急「苦楽園」駅 徒歩13分  
【条件】面談にて  
【設備等】チェア2台、デンタル1台、その他諸設備器材。16坪。  
【その他】関西スーパー近隣。H20年開設。  
【連絡先】0798-71-6010 (小林)

**おこわり**  
▽2月5日付の「TPPの良 番外編①」の記事の⑥は、3月5日付に掲載します。

新しいくらしをはじめませんか?  
**春の住まいと病院の相談会**

戸建て、マンション、リフォーム、仲介、資産活用など  
相談無料

**特別セミナー** 要予約  
不動産オーナー必見!  
「不動産を相場の3割増しで売る極意」 10:15~  
「プロが勧める相続を円滑にする2つの方法」 13:15~

相談会に事前ご予約の上、ご来場いただくこと  
ワインかスイーツ、どちらかプレゼント  
空く限り! お楽しみ抽選会  
特等 ホテルお食事券2万円分

日時・場所  
**3月5日(日)10:00~16:30**  
大阪府保険医協同組合会館M&Dホール  
大阪市浪速区幸町1-2-34 最寄り駅:地下鉄なんば駅  
●お問い合わせ先 大阪府保険医協同組合 (tel)06-6568-2741

講習会へ参加ご希望の方は、必ず事前に協会までお申し込み下さい。

**協会行事案内**

お申し込みは 電話 06-6568-7731  
ファクス 06-6568-0564

女性医師・歯科医師の会 ちよっと遅めの新年会  
児童虐待を見逃さないために医師・歯科医師にできること

在宅療養支援歯科診療所の施設基準に係る研修会  
日時 2月25日(土) 午後2時30分~5時  
会場 保険医会館 定員 50人  
講師 津崎哲郎氏(元大阪市中央児童相談所所長)  
会費 会員無料、未入会者1万円

北大阪地区総会・記念講演  
歯科衛生士教育の現状と課題  
日時 3月4日(土) 午後6時30分~8時30分  
会場 千里ライフサイエンスセンタービル6階会議室(千里中央駅北出口から徒歩5分)  
講師 野村慶雄先生(神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授)  
会費 会員、スタッフ無料 定員 50人

大阪府西部・南部地区総会記念講演  
抜髄Initial Treatmentを治療に導くために必要な23章  
日時 3月12日(日) 午前10時30分~午後1時  
会場 M&Dホール(保険医会館東隣り)  
講師 木ノ本喜史氏(大阪大学歯学部臨床教授・吹田市開業)  
会費 会員無料、未入会者1万円 定員 100人

南河内地区総会記念講習会  
歯科診療室における救急救命処置—AED実習を交えて  
日時 3月18日(土) 午後6時30分~8時30分  
会場 M&Dホール(保険医会館東隣り)  
講師 竹内憲民氏(松原徳洲会病院歯科口腔外科部長)  
会費 無料

泉州地区総会・記念講演  
新ガイドラインに基づくMRONJの症例解説(仮題)  
日時 3月18日(土) 午後6時45分~9時  
会場 りんくう総合医療センター研修棟(各線「りんくうタウン」駅徒歩5分)  
講師 大前政利氏(りんくう総合医療センター口腔外科部長)  
会費 会員無料、未入会者1万円 定員 70人

未入会者とは、会員院所に勤める未入会勤務医です  
※協会行事などを本紙等で報道・紹介するため、講習会などの写真で個人が特定されることがありますが、趣旨をご理解の上、ご了承ください。また、講習会でのビデオ撮影や録音はお断りします。